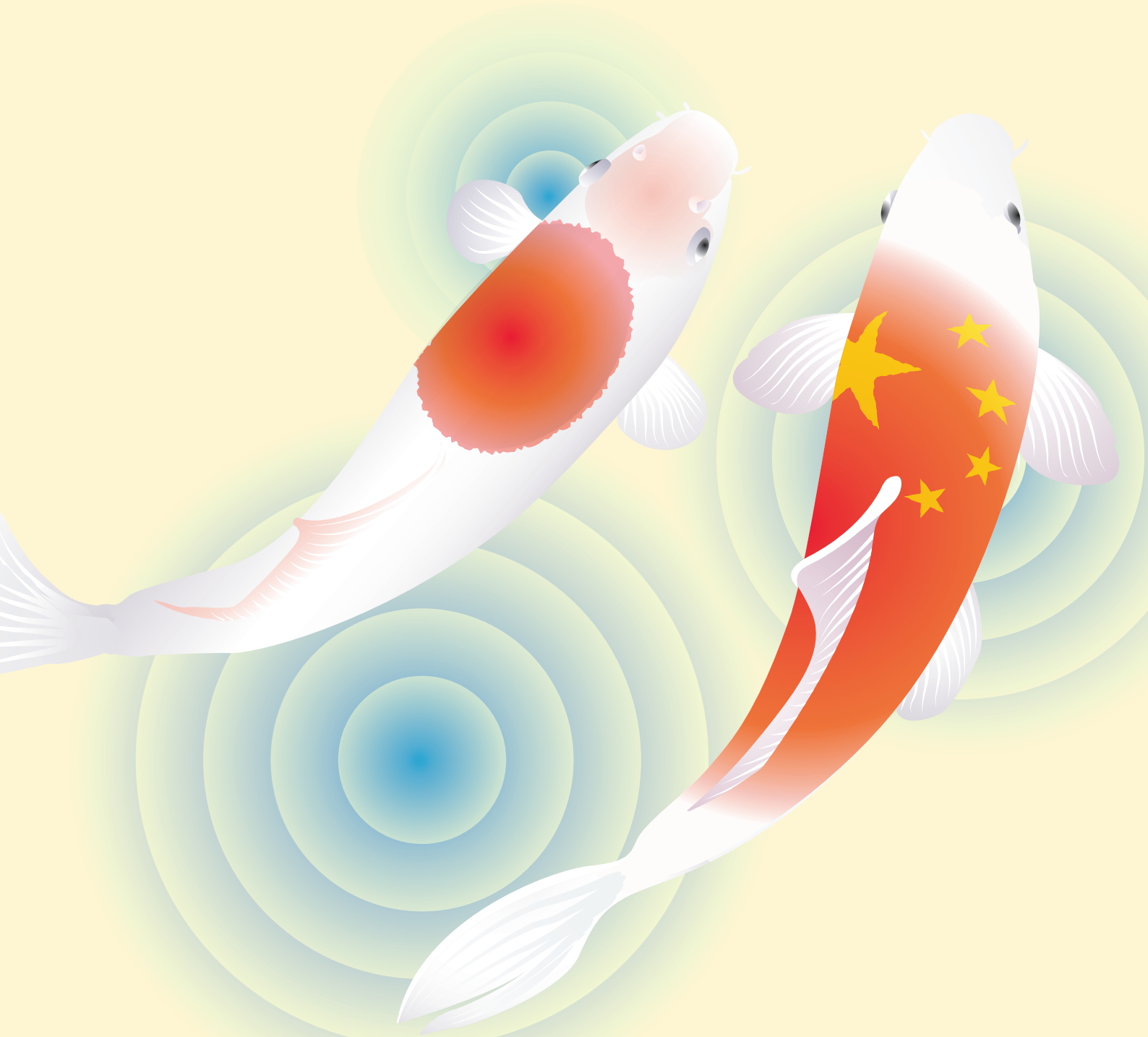
公益財団法人

日中医学協会

The Japan China Medical Association



≫目次

1 ごあいさつ

2 日中医学協会概要

目　的
理　念
設立の経緯
日中医学協会ネットワーク

5 研究助成

共同研究等助成事業
日中笹川医学協力プロジェクト－日中笹川医学奨学金制度

9 医療協力

日中笹川医学協力プロジェクト－笹川医学奨学金進修生同学会事業
日本人専門家の派遣
中国医療視察団の招請
訪日研修への支援
日本式医療の中国展開支援

12 学術会議

日中医学交流会議
日中医学大会
後援事業

14 機関誌『日中医学』

15 維持会員へのご入会並びに寄附のお願い

16 日中医学協会役員名簿

≫ ごあいさつ

日中医学協会は、1978年に日中友好協会内に日中間の医学・医療交流の専門窓口として設置された「医学学術交流小委員会」を源流とし、1980年に任意団体「日中医学協会」を創立、1985年の財団法人設立を経て、2013年に公益財団法人へ移行しました。

創立にあたり、黒川利雄会長は、「2000年の昔からわが国が中国より受けた恩恵は数えるにいとまがない程である。古詩の一節に『扶過断橋水　伴帰無月村』とあるが、日本と中国とは橋のない川でも相扶けて渡るべきであるし、月のない暗夜には手をとりあって帰るべきである。我々は医学の面において真に手をたずさえて行くべきだとの思いが本協会設立の主旨であることを強調したい」と述べています。また、懸田克躬副会長は、「日中医学協会が順調な成長を遂げて両国の医学・医療の向上と交流の推進とに役立つものとなるよう育っていくことを期待したい」と述べています。

創立時に示されたこうした思いは、今日まで脈々と受け継がれています。

日中医学協会は、「日中笹川医学奨学金制度」「日中医学交流会議」「日本式医療の中国展開」などの事業を通じて中国国家衛生健康委員会や中華医学会などと交流を深めてまいりました。40年以上に及ぶ継続的な交流の中で、確固たる信頼関係を築き、日中間の医学・医療交流に必要不可欠な存在として、国内外から高い評価をいただいております。

日中医学協会は、これからも医学・医療を含むヘルスの領域において、「倫理」「日中協力」「産学・官民の幅広い関係者の参加」「Win-Win の関係」「政治的に中立」を基本方針とし、両国民の生活の質の向上と相互の信頼醸成に資する事業を展開してまいります。

「日中笹川医学奨学金制度」など既存事業の一層の充実を図るとともに、時代の変化や両国のニーズを踏まえ、新たな事業にも積極的に取り組んでまいります。引き続き、皆さまのご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



Hideoki OGAWA

小川　秀興

公益財団法人
日中医学協会
会　長



Yutaka ATOMI

跡見　裕

公益財団法人
日中医学協会
理事長

≫ 日中医学協会概要

目　的

日中医学協会は、日本と中国の医療関連諸領域における交流事業を推進し、日中両国および両国を中心とするアジア地域の保健医療の普及と向上に寄与することを目的とし、（1）研究助成・学術的共同研究、（2）学術会議の開催、（3）医療協力事業・支援活動、（4）調査・情報収集、広報・啓発活動、（5）人材育成、（6）研究者などの招請・派遣、その他目的達成に必要な事業を実施しています。

中国では、著しい経済成長のもと、「健康中国2030」などの政策に基づき、医療衛生制度の改革・体系化が進展しています。日中医学協会は、これらの中国の政策と日本の健康・医療戦略との連動も視野に入れ、両国に有するネットワークを活用しながら、法人会員・個人会員と中国の政策部門、医療機関、医療従事者をつなぐプラットフォームの強化に努めてまいります。

理　念

わたくしたちは、以下の行動理念のもと、日中両国の協力を通じて、両国の医療保健サービスの普及と質の向上に寄与します。また、「学術の振興」「医療協力」「国際相互理解の促進」などの事業を通じて、健康で安心して暮らせる社会の実現に向け、公益財団法人として積極的に貢献します。

日中医学協会は、
医は究極の倫理であるという認識に立ち、人々が繁栄を享受できる社会の形成を目指し、倫理観の発展を世界の人々に示します。

日中医学協会は、
日中両国が力を合わせ、世界の人々に適切な保健医療サービスを提供するために、期待される役割を積極的に果たします。

日中医学協会は、
日中両国の産学・官民の幅広い関係者の参加により、医療保健を通じて、国際相互理解の促進に貢献します。

日中医学協会は、
日中両国が知見と経験を共有し、相互に Win-Win の関係であることを事業規準とします。

日中医学協会は、
政治的に中立で、社会に信頼される事業運営を行います。

設立の経緯



財団法人日中医学協会設立披露会

1972年の日中国交正常化を契機に、医学・医療関係者の相互訪問が盛んになりました。1978年、日中友好協会内に日中医学協会の前身である「医学学術交流小委員会」が設置され、中華医学会（日本医学会に相当）を中国側の窓口として、医学・医療分野の交流を行っていました。

1980年、日中友好協会から独立し、任意団体「日中医学協会」として活動を開始しました。

その後、医療の近代化を目指す中国の要請に応じて、日中間の共同研究支援や人材育成などの事業を幅広く展開するため、1985年、医学・歯学・薬学・看護・その他の医療関連団体や経済団体連合会傘下の医療業界の協力を得て、全国性と総合性を備えた「財団法人日中医学協会」が設立されました。

2013年、公益法人制度改革に伴い、「公益財団法人日中医学協会」に移行しました。現在は、公益性の高い日中医学交流事業を、時代の変化に対応しながら多様な形で展開しています。

開催年	設立記念行事	シンポジウムテーマ
2015年	設立30周年記念シンポジウム	日本医療の国際展開と中国における日中医学協会の役割 （馬暁偉中国国家衛生・計画生育委員会副主任臨席）
2013年	公益財団法人認定記念祝賀会	
2005年	設立20周年記念シンポジウム	中国における感染症の予防とコントロール （陳嘯宏衛生部副部長講演）
2000年	設立15周年記念シンポジウム	中西医結合の現状と展望（彭玉衛生部副部長講演）
1995年	設立10周年記念シンポジウム	日中医学交流の過去・現在・未来（陳敏章衛生部副部長講演）
1985年	財団法人日中医学協会設立	
1980年	日中医学協会創立	

歴代役員（役職：当時）

会　　長

小川秀興	2023～	学校法人順天堂理事長
髙久史麿	2015～2022	地域医療振興協会会長
森岡恭彦	2012～2015	日赤医療センター名誉院長
森　　亘	2006～2012	日本医学会会長
杉村　隆	2003～2005	国立がんセンター名誉総長
岡本道雄	1996～2002	京都大学名誉教授
懸田克躬	1992～1995	順天堂大学顧問
石館守三	1988～1991	笹川記念保健協力財団理事長
黒川利雄	1985～1987	日本学士院院長

理　事　長

跡見　裕	2023～	学校法人跡見学園理事長
小川秀興	2015～2023	学校法人順天堂理事長
安達　勇	2008～2015	静岡県立静岡がんセンター参与
森岡恭彦	2002～2007	日赤医療センター名誉院長
中島　章	1995～2001	順天堂大学名誉教授
羽田春兔	1992～1995	日本医師会顧問
石館守三	1985～1991	笹川記念保健協力財団理事長

≫ 日中医学協会概要

日中医学協会ネットワーク

日中両国の架け橋に ――
広げる、深める、つなげる。

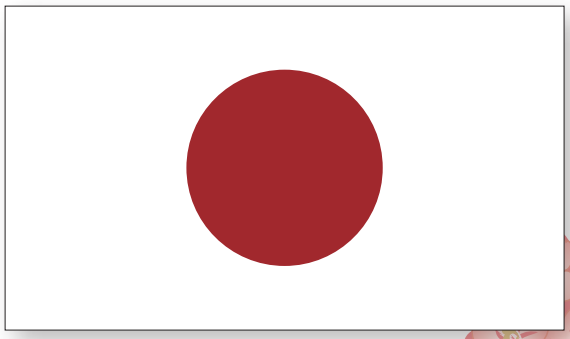
日中両国の医学・保健医療の普及・向上に寄与するため、中国の政策と日本の成長戦略との連動を見すえて、当協会が日中両国に有するネットワークを活用し、法人会員・個人会員と中国の政策部門・医療機関・医療従事者との連絡調整や橋渡しに係わる事業を一層充実させて参ります。

CHINA



- ●国家衛生健康委員会
- ●教育部
- ●外交部
- ●各省衛生庁
- ●中国駐日本国大使館（中国大使館）
- ●中華医学会
- ●中国医師会
- ●中華口腔医学会
- ●中国薬学会
- ●中華護理学会
- ●中華予防医学会
- ●医療関連企業・団体
- ●医療機関
- ●研究機関
- ●日中医学協会研究助成金受給者
- ●日中笹川医学奨学金制度研究者 2,400 名

JAPAN



- ●内閣官房
- ●内閣府
- ●法務省
- ●外務省
- ●文部科学省
- ●厚生労働省
- ●経済産業省
- ●在中国日本国大使館（日本大使館）
- ●日本医師会 / 日本医学会
- ●日本歯科医師会 / 日本歯科医学会
- ●日本薬剤師会 / 日本薬学会
- ●日本看護協会 / 日本看護学会
- ●日本女医会
- ●日本財団
- ●医療関連企業・団体
- ●日中友好団体
- ●医療機関
- ●研究機関
- ●日中医学協会研究助成金受給者

≫ 研究助成

共同研究等助成事業

日中間の学術的共同研究やその他の研究交流を通じて相互理解を深めるとともに、医療関連諸領域の学術・技術の提携と協力を推進し、両国の保健医療の普及・向上に寄与することを目的として、1986年から実施しています。

これまで「調査・共同研究」「中国人研究者・技術者招聘」「日本人研究者派遣」「在留中国人研究者」「学会助成」「トラベルグラント」の6項目を助成対象としていましたが、2013年度からは「調査・共同研究」と「若手在留中国人研究者」に絞り実施しています。

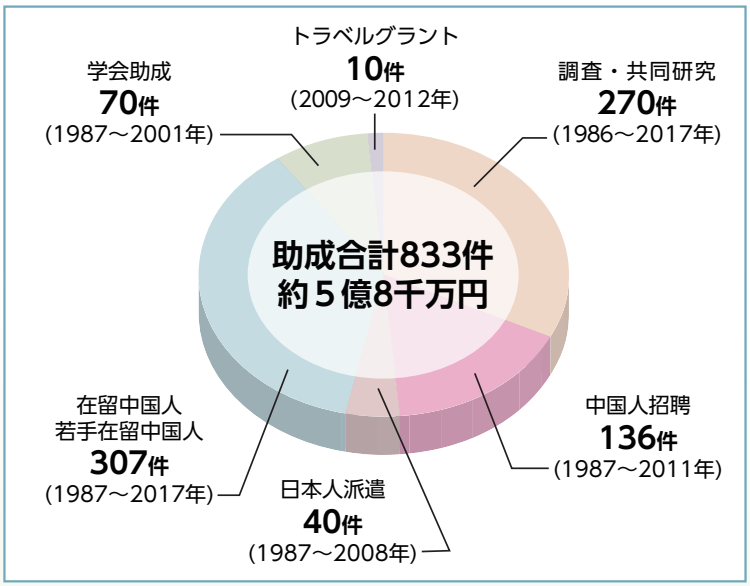
調査・共同研究助成

日本の大学、研究所などに所属し、中国の研究者と共同研究を行う研究者を対象とした助成です。2013年度からは、助成対象領域を「基礎医学・薬学」と「臨床医学・社会医学・歯学・看護」に分け、隔年で募集を行っています。助成期間は、４月から翌年３月までの１年間です。

若手日本在留中国人研究者助成

日本の大学、研究所などに在籍し、研究指導を受けている若手中国人研究者を対象とした助成です。2013年度からは、助成対象領域を「基礎医学・薬学」と「臨床医学・社会医学・歯学・看護」に分け、隔年で募集を行っています。助成期間は、４月から翌年３月までの１年間です。

助成額累計



≫ 研究助成

日中笹川医学協力プロジェクト

日中笹川医学奨学金制度

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

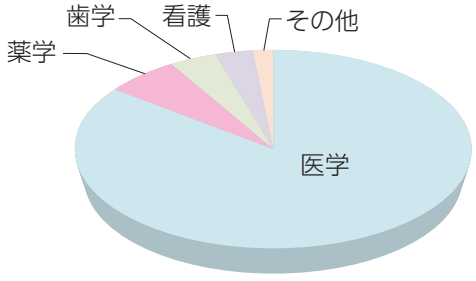
日本財団の助成を受け、1986年から中国国家衛生健康委員会（旧称：中国衛生部，中国国家衛生・計画生育委員会）とともに実施している奨学金制度です。中国の医学・医療分野を担う人材の育成と、日中両国の医学・医療分野における協力関係の一層の促進を目的として、中国の研究者を日本に招請しています。

これまでに招請した研究者は延べ2,400名以上、受入機関（大学・病院・研究所など）は240機関を超え、指導教官・共同研究者は1,800名余にのぼります。

帰国した研究者は、中国科学院の院士（日本の学士院会員に相当）や医学・医療系大学の学長・副学長、先端医療提供病院（三級病院）の病院長、主任教授などの要職に就き、中国の医学界で中心的な役割を担っています。

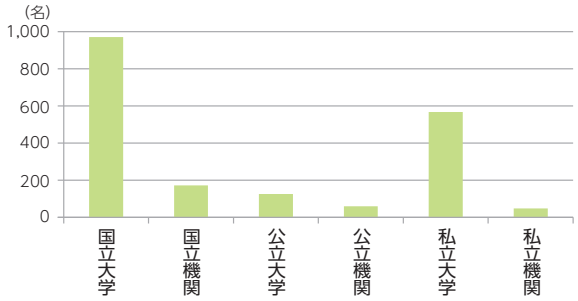
また、1991年には、研究者の同窓会組織「笹川医学奨学金進修生同学会」（略称:笹川同学会）が発足し、中国全土に6支部と日本支部、北米支部を設け、日本で学んだ知識や技術を中国国内に還元する活動を積極的に行っています。（p.9「日中笹川医学協力プロジェクトー笹川医学奨学金進修生同学会事業」参照）

研究者専門分野



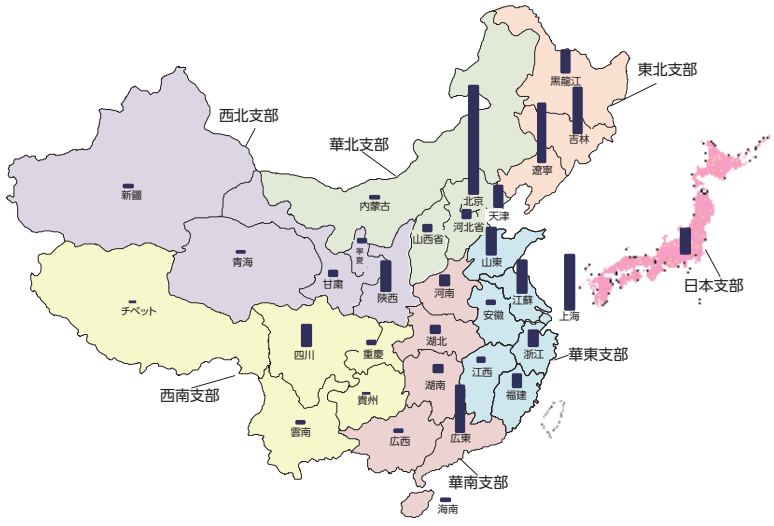
※第1～47期研究者計

研究者受け入れ機関（日本）



※第1～47期研究者計

笹川同学会支部と同学会員分布図



※グラフ：笹川同学会員数

年 表（役職：当時）

年	沿　革
1986年	『笹川医学奨学金制度』協定書調印－10年間で1,000名の研究者を招請 調印者：石館守三　日中医学協会理事長（写真：左） 笹川良一　笹川記念保健協力財団会長（写真：中央） 陳敏章　衛生部副部長（写真：右） 
1987年	笹川医学奨学金制度開始－第１期生来日 訪日前に北京・人民大会堂で顧英奇衛生部副部長主催の結団式を開催、王震中国国家副主席、笹川良一笹川記念保健協力財団会長、笹川陽平同財団理事長、石館守三日中医学協会理事長が出席 来日時に歓迎式典を開催、章曙中国駐日本国特命全権大使、斉藤昇厚生大臣、中曽根康弘総理、岡崎嘉平太氏など、400名が列席
1991年	『笹川医学奨学金制度５周年記念式典』を北京・人民大会堂で開催、朱鎔基副総理が列席 帰国した研究者が同窓会組織「笹川医学奨学金進修生同学会」（略称：笹川同学会）を結成し、中国全域の医療水準向上および日中間の医学・医療交流の促進・深化を目的に、辺境地域の医療従事者の育成や被災地などにおけるボランティア診療、日本人専門家を招き学術交流会・学術セミナーの開催などの活動を行う
1992年	帰国した研究者の中から特に優秀な研究者10名を再招請する特別研究者招請事業開始
1996年	『日中笹川医学研究者制度（第二次制度）』協定書調印－10年間で1,000名の研究者を招請 調印者：岡本道雄　日中医学協会会長（写真：左） 日野原重明　笹川記念保健協力財団理事長（写真：中央） 殷大奎　中国衛生部副部長（写真：右） 
1997年	『笹川医学奨学金制度10周年記念式典』を北京・人民大会堂で開催
1998年	第20期生帰国、受け入れ者数1,000名を達成 日中笹川医学研究者制度（第二次制度）開始－第21期生来日 特別研究者招請事業で来日する研究者を20名に増員
2007年	『日中笹川医学奨学金制度20周年記念式典』を北京・人民大会堂で開催 陳竺衛生部長、森喜朗元内閣総理大臣、尾身茂 WHO 西太平洋事務局長、研究者、指導教官、関連機関役員など、1,000余名が列席 『日中笹川医学奨学金制度（第三次制度）』協定書に調印－５年間で150名の研究者を招請 調印者：笹川陽平　日本財団会長（写真：左） 蒋作君　衛生部副部長（写真：右） 
2008年	日中笹川医学奨学金制度（第三次制度）開始－第31期生来日、特別研究者招請事業終了

≫ 研究助成

年	沿　革	
2013年	『日中笹川医学奨学金制度（第四次制度）』協定書に調印－５年間で150名の研究者を招請 調印者：尾形武寿　日本財団理事長（写真：左） 馬暁偉　中国国家衛生・計画生育委員会副主任（写真：右）	
2014年	日中笹川医学奨学金制度（第四次制度）開始－第36期生来日	
2016年	『日中笹川医学奨学金制度30周年記念式典』を日本で開催 馬暁偉国家衛生・計画生育委員会副主任、古屋範子厚生労働副大臣、程永華中国駐日本国特命全権大使、指導教官、関連機関役員など、500名余が列席	
2017年	『日中笹川医学奨学金制度（第五次制度）』協定書に調印 調印者：尾形武寿　日本財団理事長（写真：左） 崔　麗　中国国家衛生・計画生育委員会副主任（写真：中央） 小川秀興　日中医学協会理事長（写真：右）	
2018年	日中笹川医学奨学金制度（第五次制度）開始－第40期生来日	
2023年	『日中笹川医学奨学金制度35周年記念式典』を北京・人民大会堂で開催 曹雪涛中国国家衛生健康委員会副主任、森喜朗元内閣総理大臣、垂秀夫在中国日本国特命全権大使、指導教官、共同研究者、関連機関役員など、1,000余名が列席	
	『日中笹川医学奨学金制度（第六次制度）』協定書に調印 調印者：笹川陽平　日本財団会長（写真：右） 曹雪涛　中国国家衛生健康委員会副主任（写真：中央） 小川秀興　日中医学協会会長（写真：左）	
2024年	日中笹川医学奨学金制度（第六次制度）開始－第45期生来日	

≫ 医療協力

日中笹川医学協力プロジェクト

笹川医学奨学金進修生同学会事業

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

日中笹川医学奨学金制度の研究者による同窓会組織「笹川医学奨学金進修生同学会」（略称：笹川同学会，p.6参照）が主体となり、日本財団と中国国家衛生健康委員会（旧称：中国衛生部，中国国家衛生・計画生育委員会）の協力を得て、当協会と共同で実施しているプロジェクトです。中国全土の医療サービス体制の整備に寄与するとともに、医療格差の解消や大病院への患者集中の緩和を目指し、中国の医療政策に反映できる「笹川同学会事業モデル」の構築を進めています。

短期 / 中・長期診療技術研修の実施

笹川同学会員が、所属先の三級病院（先端医療提供病院）において、二級病院（県級病院）の医師や看護師に対し、専門的な知識や技術を教授し、能力向上を支援しています。



日中ハイエンド医学フォーラムの開催

中国の医療衛生政策における重点課題（がん治療、糖尿病、高齢者医療・介護など）をテーマに、日中両国の専門家による講演や意見交換を通じて、医療課題解決に向けた新たなアプローチを探究しています。



地域医療支援活動の実施

質の高い医療を地域全体に広げることを目的として、中西部など、医療格差がある地域で拠点となる医療機関を定め、笹川同学会員が定期的に訪問してプライマリ・ケアを担う医師や看護師を育成しています。



支部学術交流会の開催

毎年全国の支部において、今日的課題をテーマに学術交流会を開催しています。日本人専門家を招き、講演や意見交換を通じて情報共有を図るとともに、専門家同士の交流を深めています。



≫ 医療協力

日本人専門家の派遣



パネルディスカッション

当協会では、日中両国における医学・歯学・薬学・看護・介護などの分野での専門家交流を促進するため、日本人専門家を中国へ派遣しています。専門家は、最新の医療技術や研究成果を紹介するとともに、学術シンポジウムでの講演や医療機関における実地指導など、多様な交流活動を行っています。近年は、対面での派遣に加え、オンラインシンポジウムへの講師派遣も積極的に実施し、より柔軟で幅広い学術交流を推進しています。

また、中国の医療体制への理解を深めるため、専門家交流の一環として、三級病院（先端医療提供病院）、二級病院（県級病院）、一級病院（地域基幹医療機関）などの医療機関を視察する機会を設けています。各医療機関の医療従事者との意見交換や医療現場の視察を通じて、中国の医療体制の実情に触れ、相互理解の促進につなげています。

中国医療視察団の招請



手術看護訪日団病院参観

日本の医療事情の視察を目的として訪日する中国の医療関係者や関係団体に対し、招請状の発行、病院視察の手配、医学交流セミナーの開催などを行っています。

当協会のネットワークを活かし、視察の目的や専門分野に応じて最適な病院や講師を選定し、充実した学術交流の機会を提供しています。

病院視察や日本人専門家との意見交換を通じて、日本の先進的な医療、患者中心の医療サービス、医療安全体制などへの理解を深めることを目的に、さまざまな分野の医療関係者や政府･行政関係者を受け入れています。さらに、視察後も継続的な交流が行われている事例が増えており、日中双方の医療の発展に寄与する重要な交流事業として、高い評価を得ています。

【主な医療視察団】

- 中国国家衛生健康委員会代表団
- 中華医学会代表団
- 中国医師協会胸部外科学会代表団
- 中国検験検疫科学研究院訪日団
- 北京大学医学部公共衛生学院訪日団
- 上海市口腔医学会訪日団
- 中国病院薬剤師訪日団
- 蘇州市立病院訪日団
- 河南省周口永善病院産婦人科医師看護師訪日団
- その他各種学会参加訪日団など多数

訪日研修への支援



日中消化器内視鏡臨床診断治療・病理合同研修プロジェクト

日本の高度な医療技術・医療サービスを短期間で学ぶことを目的として、奨学金や中国側所属機関の助成を受けて来日する中国の医療従事者に対し、当協会では、招請状の発行、研修先病院の選定、研修内容の調整など、一連の受入れ業務を行っています。

また、中国政府機関と協働して若手医師育成プロジェクトを推進し、先端技術の習得に加え、多診療科連携や多職種協働の重要性について体系的に学ぶ機会を提供しています。

消化器内視鏡と病理の合同研修では、両分野の連携による早期診断・治療をテーマに、実践的な研修を行っています。こうした研修を通じて、中国各地で日本の医療技術や医療の考え方の導入が進むとともに、その成果は周辺地域にも広がりつつあります。これらの取り組みは、国際的な医療協力の一例として高く評価されています。

【主な訪日研修支援】

・日中消化器内視鏡臨床診断治療・病理合同研修プロジェクト
・中国病院長訪日研修
・科学技術振興機構（JST）「さくらサイエンスプラン」訪日研修
・国際協力機構（JICA）中国国別研修「感染症予防および対策」
・河南科技大学附属病院医師訪日研修
・中国医学科学院協和病院看護師訪日研修

日本式医療の中国展開支援



中国国内歯科技術研修（経済産業省受託事業）

当協会が有する中国の医療関係者との広範なネットワークを活用し、医療機器メーカーや大学などの研究機関、医療機関と連携して、日本政府が推進する医療分野における中国展開を支援しています。

医療改革により大きく変化している中国の医療サービス体制において、医療の質の平準化に貢献するとともに、日本の医療関連企業や医療機関が中国における活動の場をさらに広げる機会を提供しています。

≫ 学術会議

日中医学交流会議

1987年より、日中両国の医療が抱える今日的課題をテーマに、各分野を代表する日中両国の専門家を招いて、学術シンポジウム「日中医学交流会議」を開催しています。

開催年	テーマ	
2025年	感染症の臨床的展望 基調講演：王福生　中国科学院院士、 中国人民解放軍総医院第五医学センター 感染症医学部主任	
2019年	がん治療の現況と近未来 基調講演：本庶　佑　京都大学特別教授、 2018年ノーベル生理学・医学賞受賞	
2018年	生活習慣病：日中における現状と対策 ……国家レベルとしての取り組み 基調講演：高　福　中国科学院院士、中華医学会副会長、 中国疾病予防コントロールセンター主任 ※外務省日中国交正常化45周年認定行事 ※外務省日中平和友好条約締結40周年認定行事	
2016年	日中両国の医学医療領域における先進課題 ※日中笹川医学奨学金制度30周年記念講演会（主管） 祝辞：馬暁偉　中国国家衛生・計画生育委員会副主任	
2015年	日本医療の国際展開と中国における日中医学協会の役割 ※日中医学協会財団設立30周年記念シンポジウム 祝辞：馬暁偉　中国国家衛生・計画生育委員会副主任	

日中医学大会

中華医学会、日本医学会、日本歯科医学会が、日中国交正常化20周年、30周年を記念して、北京人民大会堂で「日中医学大会」を開催し、当協会が日本側事務局として大会の運営を担当しました。

本大会を契機として、それまで交流のなかった日本と中国の学会が交流を開始し、その交流は現在も続いています。



日中医学大会1992

開催年	大会名	参加者・団体	
2002年	日中医学大会2002 ※日中国交正常化30周年記念行事	日本側　1,000名 中国側　1,000名 参加学会　74学会	
1992年	日中医学大会1992 ※日中国交正常化20周年記念行事	日本側　1,000名 中国側　2,400名 参加学会　68学会	

後援事業

日中両国の専門家による学術交流の促進と発展を目的として、日本および中国で開催される各種シンポジウムなどに対し、後援を行っています。

後援会議名	主催機関
医学生のための漢方医学セミナー	小太郎漢方製薬株式会社
日中歯科医学大会	日本歯科医学会
世界中医薬学会連合会第４回アジア太平洋地域中医薬サミット	世界中医薬連合会、日本中医薬研究会
日中看護学国際シンポジウム	順天堂大学、北京大学、四川大学、中日友好医院、中国医科大学
日本医療機器テクノロジー協会学術シンポジウム「CHINA-HOSPEQ」	日本医療機器テクノロジー協会
日中東方栄養管理学術フォーラム	日中東方栄養管理研究所

≫ 機関誌『日中医学』

『日中医学』は、1986年に創刊され、年４回発行している機関誌です。日本と中国の医学・歯学・薬学・看護・介護など、医療関連の幅広い分野における現状と課題を毎号の特集テーマとして取り上げ、両国の専門家による寄稿を掲載しています。

2026年度からは、巻頭に「特別寄稿」を新設し、医学・医療をめぐる最新の課題について、第一線で活躍する専門家による論考を掲載しています。また、情報提供の一層の充実と、より幅広い読者への情報発信を図るため、オープンジャーナルとしてホームページで公開しています。



発行年度	刊数	特集テーマ
2026年度	Vol.41 No.1	日中における慢性腎臓病の現状と展望
	Vol.41 No.2	日中における医療への AI の活用の現状
	Vol.41 No.3	日中における環境衛生と予防医学
	Vol.41 No.4	日中における生活習慣病看護の現状と課題
2025年度	Vol.40 No.1	日中におけるポリファーマシーの現状と対策
	Vol.40 No.2	日中における脳卒中の現状と課題
	Vol.40 No.3	日中における口腔インプラント治療の現状
	Vol.40 No.4	学術シンポジウム《日中医学交流会議2025・中国青島》 ―感染症の臨床的展望―
2024年度	Vol.39 No.1	日中笹川医学奨学金制度35周年記念式典
	Vol.39 No.2	日中における幹細胞医療の現状
	Vol.39 No.3	日中における子宮がん治療の現状と展望
	Vol.39 No.4	日中における小児看護の現状と課題
2023年度	Vol.38 No.1	日中における在宅医療・看護の現状と課題
	Vol.38 No.2	日中における薬学領域からみた感染症治療の現状と展望
	Vol.38 No.3	日中における緩和医療の現状と課題
	Vol.38 No.4	日中における心不全治療の現状
2022年度	Vol.37 No.1	日中における感染看護の現状と課題
	Vol.37 No.2	日中のがん治療における伝統薬の役割―最近の進歩
	Vol.37 No.3	日中における高齢者歯科診療の現状と展望
	Vol.37 No.4	日中における予防医学の現状と課題

≫ 維持会員へのご入会並びに寄附のお願い

維持会員ご入会について

当協会では、当協会の趣旨にご賛同くださる方（法人を含む）に維持会員としてご加入いただいております。

会員構成

個人会員	医師、歯科医師、薬剤師、看護師、研究員などの医療関係者、および当協会の趣旨に賛同された方
法人会員	製薬メーカー、医療機器メーカー、医療コンサルティング会社、大学法人、病院、出版社、メディアなど

入会申込方法

当協会ホームページ（https://www.jpcnma.or.jp/）からオンラインでお申込みいただけます。
申込書到着後、振込用紙などの書類をお送りいたします。

協会へのご寄附について

当協会の事業活動は、維持会員の方々からの貴重な会費、並びに寄附金によって支えられております。公益事業の充実を図り、日中医学交流をさらに発展させていくために、皆様からの温かいご支援をお願いいたします。
皆様からの寄附金は、当協会の「寄附金取扱規程」に則り、有効に活用させていただきます。

寄附の種類

寄附金の種類は、３種類あります。いずれも当協会「寄附金取扱規程」における名称です。
①一般寄附：個人または団体から使途の特定がなされないで受領する寄附金
②特定寄附：広く一般社会に、協会が使途を特定して一定期間募金活動を行うことにより受領する寄附金
③特別寄附：上記２種類の寄附金以外に、個人または団体から使途の特定がなされて受領する寄附金

寄附申込方法

当協会に電話、E-Mail のいずれかでご連絡ください。寄附申込書をお送りいたします。

寄附金（会費を含む）の税法上の取扱いについて

当協会は、内閣総理大臣より「公益財団法人」としての認定を受けておりますので、当協会への寄附金（会費を含む）には、特定公益増進法人としての税法上の優遇措置が適用され、個人の方は所得税、法人は法人税の控除が受けられます。

≫ 日中医学協会役員名簿

会　長（代表理事）

小川　秀興　　学校法人順天堂理事長

理事長（代表理事）

跡見　　裕　　学校法人跡見学園理事長

副会長

安達　　勇　　静岡県立静岡がんセンター参与
岩月　　進　　公益社団法人日本薬剤師会会長
門脇　　孝　　日本医学会会長
小林隆太郎　　日本歯科医学会会長
高橋　英登　　公益社団法人日本歯科医師会会長
松本　吉郎　　公益社団法人日本医師会会長

評議員

稲垣　暢也　　公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院理事長
上坂　克彦　　静岡県立静岡がんセンター総長
大曲　貴夫　　国立健康危機管理研究機構国立国際医療センター副院長／国際感染症センター長
緒方　　剛　　筑波大学医学群医学類講師
緒方　晴彦　　藤田医科大学東京 先端医療研究センター消化器内科学教授
小林　百代　　公益社団法人日本薬剤師会常務理事
末瀬　一彦　　公益社団法人日本歯科医師会常務理事
鈴木　秀和　　東海大学医学部消化器内科学教授
杉山　　清　　星薬科大学学長補佐
高木　俊明　　テルモ株式会社代表取締役会長
高橋　和久　　順天堂大学名誉教授
髙松　　研　　東邦大学名誉学長
寺本　　明　　湘南医療大学副学長
根本　則道　　日本大学名誉教授
服部　信孝　　順天堂大学学長補佐
濵口　欣也　　公益社団法人日本医師会常任理事
山田　陽城　　一般財団法人北里環境科学センター理事長

業務執行理事

新井　　一	学校法人順天堂理事長補佐
尾身　　茂	公益財団法人結核予防会理事長
日比　紀文	慶應義塾大学名誉教授

理　事

安達　　勇	静岡県立静岡がんセンター参与
池端　幸彦	公益社団法人日本医師会副会長
大友　克之	朝日大学学長
冲永　寛子	学校法人帝京大学常務理事／帝京大学副学長
加藤　照和	株式会社ツムラ代表取締役社長 CEO
國土　典宏	国立健康危機管理研究機構理事長
髙折　晃史	京都大学医学部附属病院院長
手代木　功	塩野義製薬株式会社代表取締役会長兼社長 CEO
永田　良一	株式会社新日本科学代表取締役会長兼社長 CEO・CHO
林﨑　良英	株式会社ダナフォーム代表取締役
眞鍋　　淳	第一三共株式会社常勤顧問
宮島　俊彦	日本製薬団体連合会理事長
山下　俊一	公立大学法人福島県立医科大学理事長特命教授／福島県立医科大学副学長

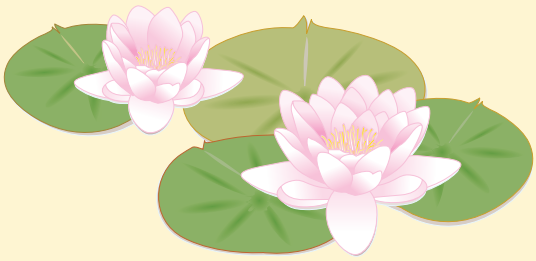
監　事

春日　雅人	公益財団法人朝日生命成人病研究所所長
金井　正義	公認会計士

顧　問

趙　　群	笹川医学奨学金進修生同学会理事長
前田　佳子	公益社団法人日本女医会会長

（五十音順）



公益財団法人 日中医学協会
The Japan China Medical Association

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-4-3 住泉 KM ビル 6 階
電話：03-5829-9123　FAX：03-3866-9080
E-Mail：iryo@jpcnma.or.jp
URL：https://www.jpcnma.or.jp

2026年 8 月発行